

平成26年度第1回健康づくり審議会でのご質問とこれに対する考え方

日時：平成26年8月29日（金） 13:30～15:30

場所：兵庫県農業共済会館7階 大会議室

ご質問の概要	考え方（案）
<p>1 運動を継続している人の割合が低下しているが、この中でどの項目が減少していたのか、規模別、業種別、年齢別等で示されたい。</p>	<p>項目別の状況については別紙のとおりです。 なお、事業規模や詳細な業種については今回の調査対象ではないため不明です。</p>
<p>2 かかりつけ歯科医の割合の増加が評価不能になっている理由を示されたい。</p>	<p>項目によっては、毎年アンケート等が実施できないため、評価できないものがあります。現状の評価ができるよう、調査方法については検討します。</p>
<p>3 チェーン薬局について、地域でそれなりの役割を果たしているにもかかわらず、行政等との関連が十分でないとの指摘について、県としての意見を伺いたい。</p>	<p>薬剤師会に加入していないチェーン薬局についても、研修会や立入調査などを通じて関係法令の遵守や地域医療への適切な関与について、引き続き指導・助言を行っていきます。</p>
<p>4 災害時の保健指導マニュアルの策定市町の増加について、現在策定市町が13市町であることについて、県からコメントされたい。</p>	<p>平成24年度と比較すると倍増しており、現在3市町が策定に向けて取組を始めています。また、他の地域においては健康福祉事務所単位で災害時の保健活動について研修を行っており、マニュアル策定につながるよう努めています。今後も全市町策定を目指して引き続き策定市町の増加を促すとともに、災害時にマニュアルが活かせるようマニュアルの更新や訓練を促します。</p>

<p>5 企業のメンタルヘルスの推進等に関して、県から考えがあれば示されたい。</p>	<p>県では本年度「健康づくりチャレンジ企業」に対して、ストレスチェックの実施や、中小企業のメンタルヘルス改善支援事業等を実施することとしており、産業医と協力しながら職場のメンタルヘルス対策の取組を推進していきます。</p>
<p>6 受動喫煙対策の推進について、例えば官公庁などは建物内禁煙を達成したなら敷地内禁煙に計画目標を変更するとよいのではないか。</p>	<p>「兵庫県健康づくり推進実施計画」の受動喫煙対策の推進の項目は、「受動喫煙の防止等に関する条例」の規定に基づき、目標を設定しています。</p> <p>ご指摘の点につきましては、現計画期間が終了する翌年度（平成30年度）に、同条例の見直しが規定されていることから、今後の社会情勢の変化等を踏まえた同条例の見直しにあわせて、次計画の目標設定の変更についても検討してまいります。</p>
<p>7 禁煙は国家的な課題であり、兵庫県は建物内禁煙に対し◎と評価しているが、まだ道半ばではないのか。</p>	<p>資料1の「受動喫煙対策の推進」の現状にある「◎」は、教育機関や官公庁、交通機関で、条例に定める対策が達成されていることに着目し、表記しているものです。</p> <p>ご指摘のとおり、たばこ対策が究極的には、全面禁煙を目指すことは認識していますが、「兵庫県健康づくり推進実施計画」では、条例の規定と目標設定時の社会情勢にあわせて目標を設定していません。</p>

<p>8</p> <p>「危険ドラッグ」については健康づくりに入らないのか。</p>	<p>「危険ドラッグ」は本年7月より使われ始めた用語ですが、健康づくり推進実施計画策定時には「脱法ドラッグ」として、薬物乱用少年をなくす目標（0人）を掲げています。</p> <p>なお、薬物乱用対策については、県、国、市及び取締機関等をメンバーとする「兵庫県薬物乱用対策推進本部（本部長：知事）」が別途設置されており、関係機関が連携して総合的に薬物乱用対策を推進しています。</p>
<p>9</p> <p>スポーツをする子どもの増加について、学校体育の授業を除くとあるが、放課後や帰宅後に行うものと考えてよいのか。また、中学校の部活動は学校授業ではないがこの中に入っているか。遊びとスポーツの区別はどのようにしているのか。どのような根拠で目標値が90パーセントなのか。</p>	<p>学校体育授業を除く、1日あたり1時間以上行うものをカウントしています。例えば、業間休み、放課後や帰宅後に行うもので、中学校の部活動を含みます。遊びとスポーツの区別に関しては、身体活動を伴う遊びについてはスポーツとしてカウントしています。目標値については、「兵庫県スポーツ推進計画」の目標値を引用しており、これはより多くの子どもたちが自ら体を動かす楽しさや心地よさを実感し、自ら進んでスポーツを実施する習慣を育むという思いから定めたものです。</p>
<p>10</p> <p>運動を継続する人が減っていることについて、どのような分析をしているのか。</p>	<p>運動を行う理由として、「健康・体力づくりのため」や「楽しみ、気晴らしとして」が上位を占めています。今後は、ウォーキング等の手軽にできる運動を通じた健康づくりについて、広く県民に周知し、運動を継続するきっかけづくりを行っていきます。</p> <p>なお、「無回答」が増加していることから、設問が後半に移動したことによる回答疲</p>

	<p>れの影響など、前回とアンケート手法が異なることによる影響も理由として考えられ、調査手法を再検討します。</p>
<p>11 むし歯について、学齢期以降の空白になっている部分はどうなっているのか。</p>	<p>学齢期以降については、健診結果の報告が義務づけられていないため、むし歯について評価することが困難です。また、成人期以降について、歯周疾患検診の実施市町は年々増加傾向にありますが、節目年齢の人しか対象にならないことや、総体的に受診者数が少ない状況であり、全国、全県ともに学齢期以降の歯科疾患の実態把握が困難であるのが現状です。</p>
<p>12 資料2-2の平成25年健康づくりチャレンジ企業取組事例集で平成25年度の実事例として歯科口腔ケアがあるが、平成26年から開始する支援メニューでは歯科が入っていない理由について。</p>	<p>資料2-2の平成25年健康づくりチャレンジ企業取組事例集のP40に掲げるものは平成26年度から新たに始まる支援メニューを示したものであり、歯科口腔ケアについては平成25年度に引き続き支援メニューとしています。</p>